齒 科 外 科

○齒科外科の手術ニ於ケル患者ノ前處置

Die Krankenvorbereitung zu Zahnärztlich-chirurgischen Eingriffen

von Dr. H. G. Christ (Dtsch. Zahnärztl.

Wschr. 1. 1938)

1, 全身の前處置

外科の處置ノ始メニ際シテハ、患者ニ對シテ齒科醫師ノ慰安的ナ説明ガ行ナハレナクレバナラナイ。多クノ前以テノ精神の興奮ノ鎮靜ハ、外科手術ノ施行ヲ局部麻酔ノアル上ニ更ニ醫師ヲシテ容易ナラシメル。而シテ又ソノ事ハ不愉快ナ而モ手間取ル虚脱ニ對シテモ有效デアル。即虚脱ハ精神の不安ノ方ガ關係ガ深イカラデアル。非常ニ神經的ナソシテ過敏性ノ患者ニ在リテハ、處置ノ前ニ全身の鎮靜劑又簡單ナル神經緩和劑ヲ與ヘル事ハ推薦スベキ價值ノアル事デアル。吾人ハ原則トシテ效果アリ而モ無害ナ藥物ヲ、神經質ノ患者ノ鎮靜ニ對シテ使用スルモノデアル。「ケッソール」ハ非常ニ奏效確實デアルト著者ハ述ベテキル。ソレハ心臟病患者ニ對シテ特ニ有效デ、非常ニ鎮靜的ニ作用スルノ手術ハ何等ノ障礙ナク終ヘル事が出來ル。消化器系統ノ狀態ニ關シテモ亦齒科醫師ハ或程度ノ注意ヲ拂ハネバナラス。

局所麻酔ノ下ニ行フ手術ニ際シテハ、患者ノ空腹狀態ハ不必要デアリ、又望マシカラス事デアルガ、手術ヲ行フニ當リテ適當ナル時期ヲエラバネバナラス。又便秘ノ存在ノ除去ハ良好ナル外科手術前準備ノ爲ニ行ハナクレバナラス。モシ患者ガ重症ナル全身の疾患例ヘバ調節出來ナイ心臟瓣膜症ヲ有シテ居ルナラバ、豫メ主治醫師ヲシテ特別ナル注意ニ關シテ又藥物ノ投與ト準備ニ關シテ説明ヲ第1ニシテオカネバナラス。出血性素因ヲ有スル患者ハ、質問ニ依リテ決定出來ルガ、吾人ハ數日前ヨリ1日ニ3回血液凝固作用ノアル藥物ヲ與フベキデアル。

II, 口腔内ノ前處置

齒科の手術ノ好成績ヲ得ル爲ニハ、適切ナル後處置

ノ上ニ更ニ口腔ノ前處置ガ必要デアル。

先ヅ第1ニ口腔ノ清掃、結石ノ除去、齒齦炎モシクハ齒根膜炎ノ如キ炎症症狀ノ撲滅、壞死齒髓ノ處置ト齦蝕缺损ノ充填等デアル。

a) 緊急の手術ニ際シテ

主トシテ化膿性疾患ノ處置デアルガ勿論豫メ口腔狀態ノ改良ハ行ハレナイ。併シ「カミレン」又ハ過酸化水素液ヲ以テ簡單ナル清掃ト細菌ヲ少ナクスル爲ノ口腔ノ清掃ヲ手術ニ先行シテナサネバナラス。

b) 延期シ得ベキ手術ニ際シテ

大ナル嚢腫ノ手術數齒ノ根端切除又ハ大白齒ノ根端切除、轉位齒ノ鑿除、特ニ下顎智齒又ハ長時間ニ渡ル手術ノ如キハ特ニ口腔ノ前處置ガ必要デアル。唯一齒ノ除去又數齒ニ限ル時モ口腔ノ清掃ガ先行サレル事が正シイ。

c) 慢性炎症狀態ニ際シテ

モシ慢性炎症狀態ガ存在スルナラバ、吾人ノ處置ハ單ナル炎症性症狀ノ消滅バカリデナク、緊急處置ト同様ナ口腔前處置ヲナスベキデアル。斯如キ場合ニ於テハ全病竈ノ除去(例ヘバ骨炎ノ除去)又部分の原因(例ヘバ口内炎、殘根)ノ除去ニアル。手術前ト手術中ニ「イルリカートル」ヲ洗滌ノ應用ガ推薦サレテ居ル。骨創ノ危険ナ化膿ニ對シテハ「クロールフェノールカンファ」ヲ濕タシタ又壓縮シタ「ヨードホルムガーゼ」ヲ「タンボン」トシテ插入シテオクノデアル。化膿セル下顎智齒ノ除去ニ際シテハ是等ノ前處置ガ Waßmund 氏ニ依テ推薦セラレテキル。

III, 手術前處置ノ特別ナル問題

手術ノ前處置ニ際シ決定スベキ特別ナル問題ハ根端切除ニ際スル根管充填ノ問題デアルガ著者ハ手術ノ前又ハ手術中ニ簡單ニ行ツテ居ル。(田中俊男)

○口腔外科の手術ノ後處置ニ對スル

實際上ノ注意

Praktische Winke für die Nachbehandlung
mundchirurgischer Eingriffe.

von Dr. med., Dr. med. dent. Martin Herrmann.
(Dtsch. Zahnärztl. Wschr. 1937. Nr. 37)